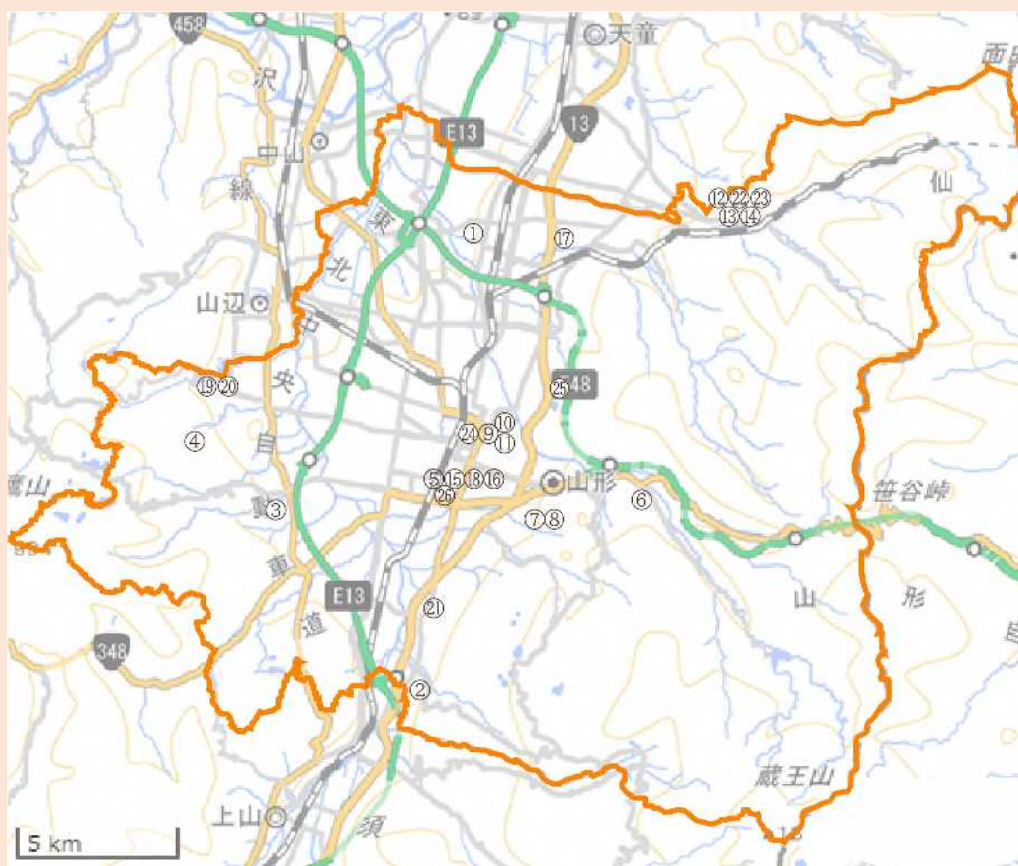


市指定有形文化財

【彫刻】



市指定有形文化財 【彫刻】

- ①木造菩薩形立像及び天部立像
- ②木造天部立像及び男神像
- ③木造女神坐像
- ④木造文殊菩薩騎獅像
- ⑤鉄造毘沙門天立像
- ⑥木造蔵王権現立像
- ⑦木造天部立像

- ⑧木造釈迦如来坐像
- ⑨木造釈迦如来坐像
- ⑩銅造阿弥陀如来立像
- ⑪木造聖観音菩薩立像
- ⑫木造大日如来坐像
- ⑬木造僧形文殊菩薩坐像
- ⑭木造毘沙門天立像

- ⑮木造不動明王立像
- ⑯木造観音菩薩立像
及び木造勢至菩薩立像
- ⑰銅造阿弥陀如来立像
- ⑱木造聖観音菩薩坐像
- ⑲木造不動明王坐像
- ⑳木造愛染明王坐像

- ㉑銅造阿弥陀如来立像
- ㉒木造阿弥陀如来坐像
- ㉓木造不動明王立像
- ㉔木造浮彫（香合仏）
愛染明王像
- ㉕木造釈迦如来坐像
- ㉖木造聖観音菩薩立像



01

もくぞうぼさつぎょうりゅうぞう

てんぶりゅうぞう

木造菩薩形立像及び天部立像

所在地：山形市大字千手堂509-1

所有者：吉祥院

指定年月日：昭和39年2月22日

宮殿くうでんの前に並んで安置される三体で、毘沙門天と伝わる像(左)、吉祥天と伝わる像(中)、子安観音と伝わる像(右)。三体は平安時代の制定と推定され、吉祥院が平安時代より栄えてきたことをうかがわせる。



02

もくぞうてんぶりゅうぞう

だんしんぞう

木造天部立像及び男神像

所在地：山形市蔵王半郷

所有者：個人

指定年月日：昭和39年2月22日

男神立像(左)は衣冠をつけた神像で、像高159cm、もとは彩色像であったと思われる。神像彫刻は仏像と比較して発祥も遅く、極めて数が少ない中、本彫刻は平安時代にさかのぼる神像である。天部立像(右)は、カツラの一木造に黒漆塗で、12世紀の作と推定される。



03

もくぞうじょしんざぞう

木造女神坐像

所在地：山形市大字柏倉910-1

所有者：柏倉八幡神社

指定年月日：昭和40年3月5日

康平6(1063)年の勧請と伝わる柏倉八幡神社に祀られる、もとは彩色であっただろう、女神の座像。長い眉の下に静かな目、豊かな頬、小さな口、左右に振り分けた髪、衣の中に拱手する姿。王朝時代の女官の風貌と風俗をあらわしている。制作は平安時代から鎌倉時代にさかのぼる。



04

もくぞうもんじゅぼさつきしぞう

木造文殊菩薩騎獅像

所在地：山形市大字村木沢6048

所有者：良向寺

指定年月日：昭和49年1月18日

アジサイの名所として知られる出塩文殊堂の本尊。右手に五智の宝剣、左手に経巻を持ち、蓮華座に座り、さらに獅子に乗る姿。菩薩像も光背も獅子も極彩色で、ほぼ完全な姿で保存されている。古来、秘仏として畏敬されており、公開はされていない。江戸時代後期の作と推定される。



05

てつぞうびしゃもんでんりゅうぞう

鉄造毘沙門天立像

所在地：山形市八日町二丁目4-35

所有者：浄光寺

指定年月日：昭和60年11月25日

浄光寺の開祖日満上人は布教のため山形を訪れたところ、山形城主最上義光の父義守の病を快癒させたことから、城下に寺地を与えられ、伽藍を寄進された。本像は、来形時に随行者に背負わせたという寺伝がある。鑄造されたのは鎌倉時代後期、13世紀末と推定される。



06

もくぞうごおうごんげんりゅうぞう

木造蔵王権現立像

所在地：山形市大字下宝沢282

所有者：蔵王大権現保存会

指定年月日：平成13年3月1日

蔵王権現は修験道の神で、蔵王連峰に修験者が入り込み、蔵王権現を勧請した。蔵王の登拝口の一つである宝沢口の蔵王権現堂に安置されているのが本像。像高は3mを超え、忿怒層を表し、盤石座の上で激しい動きを見せる。頭部は室町時代以降、体部は江戸時代後期以降の作と推定される。



07

もくぞうてんぶりゅうぞう

木造天部立像

所在地：山形市大字平清水番外1

所有者：平泉寺

指定年月日：平成19年1月31日

平泉寺大日堂の内陣須弥壇^{しゅみだん}左右に安置される。吽形像は、髻^{もとどり}を螺髻に結い上げ閉口して、邪鬼の上に立つ。一木造の彩色像で身色は白。阿形像は、髻を結い上げ、開口している他は吽形像とほぼ同形で、身色は赤。両像は当初から一具像で、制作は10世紀後半と考えられる。



08

もくぞうしゃかによらいざぞう

木造釈迦如来坐像

所在地：山形市大字平清水番外1

所有者：平泉寺

指定年月日：平成19年1月31日

平泉寺客殿の本尊。材は不明だが一材から彫り出されていると思われる。やや胸をすぼめる姿勢や薄い体躯、柔和な表情を見せる面相、穏やかな胸の肉付けや柔らかい腹前の衣文線など、平安時代後期の作風と思われる。



09

もくぞうしゃかによらいざぞう

木造釈迦如来坐像

所在地：山形市七日町三丁目3-5

所有者：長源寺

指定年月日：平成19年3月30日

長源寺の本尊。頭部は髻^{もとどり}を高く結って宝冠を着ける「宝冠の釈迦如来」。宋風美術の影響も見られ、鎌倉時代後期の院派系仏師の作と思われる。また、手の形からみると、もとは宝冠釈迦の脇侍である普賢菩薩像であったと思われる。



10

どうぞうあみだによらいりゅうぞう

銅造阿弥陀如来立像

所在地：山形市七日町四丁目4-16

所有者：来迎寺

指定年月日：平成19年3月30日

来迎寺の本尊。肉髻^{にっけい}が低く、髪際がやや波型になるところ、袖の垂下部を揺るがせる表現、衲衣^{のうえ}の折り返しなど、宋風美術の影響を受けた鎌倉彫刻の特徴を持ち、制作時期は鎌倉時代後期の13世紀末と思われる。また本像は鎌倉時代に流行した善光寺式阿弥陀像と考えられる。



11

もくぞうしょうかんのんぼさつりゅうぞう

木造聖観音菩薩立像

所在地：山形市七日町四丁目4-16

所有者：来迎寺

指定年月日：平成19年3月30日

来迎寺境内の観音堂に安置される秘仏。顔が長めで目鼻立ちは小さく、優しい上品な顔立ちをしており、衣文線の浅い彫り、胸や腰を薄く作るなどは、平安時代末期の特徴。笹谷峠に捨てられていた観音像を持ち帰ったものとの寺伝があり、庶民の願いをかなえる秘仏として祀られている。



12

もくぞうだいにちによらいざぞう

木造大日如来坐像

所在地：山形市大字山寺4456-1

所有者：立石寺

指定年月日：平成19年10月24日

立石寺宝物殿正面に安置されている。本像は智拳印を結ぶ金剛界の大日如来で、密教世界の中心にあって、宇宙の真理を象徴する如来。身体から離れた腕の部分、そこからのびる両手先までが一木で彫り出されており、技術的にも大変珍しい。平安時代後期の作と考えられる。



13

もくぞうそうぎょうもんじゅぼさつぎぞう

木造僧形文殊菩薩坐像

所在地：山形市大字山寺4456-1

所有者：立石寺

指定年月日：平成19年10月24日

根本中堂内陣右奥に安置されている。文殊菩薩は、理性的な知恵をもって悟りの世界へ導く菩薩。材には東北の仏像に多いカツラを使っていることから在地での制作と考えられる。数少ない、平安時代後期に遡る遺品として希少。



14

もくぞうびしゃもんてんりゅうぞう

木造毘沙門天立像

所在地：山形市大字山寺4456-4

所有者：性相院

指定年月日：平成19年10月24日

立石寺山内の性相院の須弥壇^{しゅみだん}右側に安置されている。生氣ある精悍な表情で、体部も動きのある姿勢を巧みに表現している。身体の動勢がややおとなしくなっていることから、制作は鎌倉時代、13世紀半ばと思われる、中央風の作風を示す像。



15

もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう

木造不動明王立像

所在地：山形市八日町二丁目1-57

所有者：寶光院

指定年月日：平成20年3月28日

寶光院本堂書院に安置されている。木製で彩色が厚く、材や構造は不明だが、頭体のバランスも良く、優れた作品。台座の内部に墨書銘が記され、江戸時代初期の寛永19(1642)年制作、作者は大仏師治部卿法橋^{ほつきやう}と判明している。来歴がわかる仏像として貴重。



16 もくぞうかんのんぼさつりゅうぞう もくぞうせいじぼさつりゅうぞう
木造観音菩薩立像及び木造勢至菩薩立像

所在地：山形市三日町二丁目1-52

所有者：梵行寺

指定年月日：平成20年3月28日

梵行寺に安置されており、向かって右側から観音菩薩立像、勢至菩薩立像。両像とも頭部が小さく、腰の位置が高い、体の肉付けが薄く衣文の彫りも浅いなど、平安時代後期に見られる典型的な特徴を持つ。阿弥陀脇侍として一対で制作されたもので、この形式では全国的にも最古の部類に入る。



17 どうぞうあみだによらいりゅうぞう
銅造阿弥陀如来立像

所在地：山形市大字十文字21

所有者：阿弥陀寺

指定年月日：平成20年11月19日

阿弥陀寺の本尊。穏やかな表情やゆったりとした雰囲気をもつ、鎌倉時代前期の作。太い体軀、大きめな衲衣をゆったりと纏う形、たなびく袖の表現など全体的に鎌倉時代の様式を表す。一方で衣文線がゆったりと流れ数が少なめのところなど、細部に古い形式をみせ、鎌倉彫刻の多面性を示す。



18 もくぞうしょうかんのんぼさつざぞう
木造聖観音菩薩坐像

所在地：山形市八日町二丁目1-57

所有者：寶光院

指定年月日：平成20年11月19日

寶光院本堂書院に安置されている。寛永寺より移されたとの寺伝がある。江戸時代前期の作であるが、一見、鎌倉時代の慶派を思わせる写実性に基づく端正な作。作風から、鎌倉彫刻を手本とした慶派正統の仏師の水準の高さを示しており、近年注目されている江戸彫刻の資料として大変貴重。



19

もくぞうふどうみょうおうざぞう

木造不動明王坐像

所在地：山形市大字上反田4-2

所有者：安養寺

指定年月日：平成21年3月31日

安養寺の本尊。光背正面に「京室町通仏光寺下ル町」「大佛師鈴木民部作」の墨書銘があり、作者は同寺の愛染明王坐像と同じ。両像は同時期に一对で制作されたと考えられ、本像は享保14(1729)年頃の作と思われる。山形における真言系の特異な信仰・安置形態を見るうえでも重要な像。



20

もくぞうあいぜんみょうおうざぞう

木造愛染明王坐像

所在地：山形市大字上反田4-2

所有者：安養寺

指定年月日：平成21年3月31日

不動明王坐像と同様、安養寺本堂に安置される。江戸時代後期の作品だが、生气溢れる顔の表情、バランスのとれた体軀表現など、彫刻として大変優れた作。台座裏に、「享保十四年己酉年二月吉日」「大佛師鈴木民部作之」などの墨書銘があり、制作年(享保14(1729)年)や制作者が判る。



21

どうぞうあみだによらいりゅうぞう

銅造阿弥陀如来立像

所在地：山形市蔵王成沢14

所有者：源福寺

指定年月日：平成21年3月31日

源福寺の本尊。肉髻^{にっけい}が低く、髪際がやや波打ち、衲衣^{のうえ}の袖を揺らせて垂らす形などは鎌倉時代の特徴。垂下する袖や背面覆肩衣の折り返し部が厚いところから、鎌倉時代後期の作と思われる。衣の形式は背面まで整頓され、衣文表現も体の動きに伴い変化させるなど、造形感覚の高さがみられる。



22

もくぞうあみだによらいざぞう

木造阿弥陀如来坐像

所在地：山形市大字山寺4456-1

所有者：立石寺

指定年月日：平成21年12月24日

立石寺本坊の本尊。面奥が深く胸が厚く、胸の肉付けも豊かで腹部も丸みを帯び、衣文線の彫りも深いもので、制作は10世紀後半（平安時代後期）と考えられる。現状は阿弥陀如来像だが、元は薬師如来坐像であった可能性が高い。



23

もくぞうふどうみょうおうりゅうぞう

木造不動明王立像

所在地：山形市大字山寺4456-1

所有者：立石寺

指定年月日：平成21年12月24日

立石寺本坊の須弥壇^{しゅみだん}右側に安置される。生氣溢れる表情や、みずみずしく緊張感のある体軀の表現は、鎌倉時代慶派の作風。頭部が小さく脚の長い体形、正面の腰を絞るものの奥行の量感はある体部、柔らかな衣文線などから、13世紀半ば（鎌倉時代前期）の中央で制作されたと考えられる。



24

もくぞううきぼり(こうごうぶつ)あいぜんみょうおうぞう

木造浮彫(香合仏)愛染明王像

所在地：山形市七日町一丁目4-12

所有者：慈光明院

指定年月日：令和元年10月2日

径6cmの木造円形の香合形の身の内部に愛染明王像を浮き彫りにしたもの。愛染明王像の体型や肉体表現から、鎌倉時代に制作されたと推定される。愛染明王像の香合仏は「身に着けておけば、災いを防ぐ」というもの。寒河江慈恩寺の遺品であると考えられる。



25

もくぞうしゃかによらいざぞう

木造釈迦如来坐像

所在地：山形市山家本町二丁目3-10

所有者：金勝寺

指定年月日：令和6年4月8日

もとどり

髻を結び宝冠を着ける宝冠釈迦。頭部が大きく体部が小さい体形は南北朝から室町時代にみられるもので、鉢が開いてやや下膨れ気味の輪郭、うつむき加減の面相、波打つような衣文線の表現などは院派仏師の作品にみられるもの。制作は室町時代初期と思われる。



26

もくぞうしょうかんのんぼさつりゅうぞう

木造聖観音菩薩立像

所在地：山形市鉄砲町一丁目4-8

所有者：勝因寺

指定年月日：令和6年4月8日

菩薩形立像。面相部が小さく脚の長い体形、彫りの浅い衣文表現などは平安時代後期の作に通ずるが、肩幅が広く、やや吊り上がった切れ長の目、条帛や裙の衣文線の数が多いことなどは平安時代の表現から脱している。平安時代末期から鎌倉時代初期の作であると考えられる。